

次世代を担う才能を発掘・応援する、アートとデザインのコンペティション

「Tokyo Midtown Award 2014」

## デザインコンペ募集開始間近！

～今年のテーマは「和える」～ 7 月 18 日(金)～8 月 19 日(火)必着

&lt;受賞作品が大ヒット商品に?! 過去の受賞者の活躍もお知らせします！&gt;

東京ミッドタウン(事業者代表 三井不動産株式会社)は、街のコンセプトである“「JAPAN VALUE(新しい日本の価値・感性・才能)」を創造・結集し、世界に発信し続ける街”を目指す一環として、毎年、アートコンペとデザインコンペからなる「Tokyo Midtown Award」を開催しています。過去 6 回の開催で、延べ応募者数約 9 千組の中から、デザインコンペでは 53 組、アートコンペでは 27 組の受賞者が生まれ、それぞれの活躍の場を広げています。

本ニュースレターでは、7 月 18 日(金)から始まるデザインコンペの概要をはじめ、デザインコンペの受賞をきっかけに、大ヒット商品の生みの親となった過去の受賞者の活躍、受賞者へのサポートについてご紹介します。

また、今後の「Tokyo Midtown Award 2014」のスケジュール、審査員からのコメントもご案内いたします。

### <目次>

1. 「Tokyo Midtown Award 2014」デザインコンペ募集開始間近！7 月 18 日(金)～8 月 19 日(火)必着
2. 速報！「MID DAY」初開催！～「Tokyo Midtown Award 2013」デザインコンペ グランプリ作品～
3. 「Tokyo Midtown Award」デザインコンペ発！大ヒット商品「歌舞伎フェイスパック」
4. 夏のワークショップ アートコンペ受賞者 開催情報
5. デザインコンペ／アートコンペ審査スケジュール
6. デザインコンペ審査員からのコメント

### 1. 「Tokyo Midtown Award 2014」デザインコンペ募集開始！ 7 月 18 日(金)～8 月 19 日(火)必着

7 月 18 日(金)から、いよいよデザインコンペの募集を開始します。今年のテーマは、「和える」。「和える」とは、何かと何かを合わせ、新しい価値を生み出すこと。日本ならではの技術や素材を活かし、日本のモノづくりに新しい息吹を吹き込むことができるデザインを募集します。

#### <デザインコンペ 募集概要>

募集期間	7 月 18 日(金)～8 月 19 日(火)必着
テ ー マ	和える
賞 金	グランプリ(1 点)100 万円、準グランプリ(1 点)50 万円 優秀賞(1 点)30 万円、審査員特別賞(5 点)各 5 万円
副 賞	グランプリ受賞者を「Business of Design Week 2014」へご招待
審 査 員	小山薫堂、佐藤卓、柴田文江、原研哉、水野学

※詳細はオフィシャルサイト(<http://www.tokyo-midtown.com/jp/award/>)をご参照ください。

東京ミッドタウンでは、受賞アーティスト・デザイナーにさらなる活躍の場を提供できるよう、回を重ねるごとにコンペティション後の支援を強化してきました。作品の商品化に向けたサポートや研修のほか、デザインコンペでグランプリを受賞した作品を、東京ミッドタウンでイベントとして開催するなど、受賞者への積極的な支援を行っていることも特徴です。これまでに 8 作品が商品化され、「歌舞伎フェイスパック」や「富士山グラス」などヒット商品が登場しています。次頁以降でご紹介しますので、ぜひご参照ください。

## 2. 速報！「Tokyo Midtown Award 2013」デザインコンペ グランプリ作品

### 「MID DAY」がイベントとして初開催！

元旦から182日、大晦日まで同じく182日。7月2日は、一年のちょうどまん中の日です。とりわけ何でもない一日であったこの日を、「MID DAY(ミッドデイ)」と名付けて特別な日に見せたのは、「Tokyo Midtown Award 2013」デザインコンペでの応募作品でした。この作品でグランプリを受賞したデザイナー集団「bivouac(ビバーク)」は、7月2日を「一年のまん中を笑顔で祝う日に」というコンセプトのもと、これまでの半年を振り返り、これからの半年を想う一日にすることを提案しました。

ユニットを組んで初の作品でグランプリを受賞した bivouac



「bivouac」は、フリーデザイナー4人が集まったユニット。それぞれがステップアップを目指して参加したセミナーで出会い、「4人で新しいことに挑戦しよう」と作り上げた「MID DAY」がこのユニットの初の作品でした。デザイン業界の「今」を牽引する審査員が揃っていると感じていた「Tokyo Midtown Award」に応募し、「モノ」ではなく「コト」をデザインしたこの作品が審査員の共感を呼んで、見事グランプリを受賞しました。

### 【bivouac (ビバーク) プロフィール】

名前の由来は登山用語のビバーク(=雨ざらしの野宿)から。各自の得意分野のワクを飛び出して、アートディレクターを目指すために参加したセミナーで出会い、フリーデザイナーとしてのステップアップを模索する。4人でプレストし合い、作り上げた本作品、一年365日のまん中を祝う「MID DAY」で、Tokyo Midtown Award 2013 デザインコンペグランプリを受賞。将来的には「MID DAY」が、全国に普及する日がやってくるよう、東京ミッドタウン以外でも「MID DAY」の展開を目指す。

#### ・稲田 尊久 (いなだ たかひさ)

1975年奄美諸島の与論島生まれ。多摩美術大学 絵画科 油画専攻卒業。広告制作会社勤務を経て2008年よりフリーランスのデザイナー、アートディレクターとして活動。

#### ・姫野 恭央 (ひめの やすひろ)

1979年生まれ、埼玉県出身。拓殖大学工学部工業デザイン学科卒業。企画制作会社デザインルーム、広告系デザインプロダクション等を経て2014年4月フリーランスとして活動開始。

#### ・田中 和行 (たなか かずゆき)

大阪府出身、グラフィックデザイナー。広告制作会社勤務を経て2013年よりフリーランスに。

#### ・田島 史絵 (たじま ふみえ)

WEBデザイナー

1986年生まれ。沖縄出身。Seattle Central Community Collegeに留学。

複数のIT企業でWEBディレクターを経験後、2013年10月よりフリーランスとして活動開始。



### 受賞作品をイベントとして開催！ ～アワードの商品化支援の新たな形～

作品の商品化・具現化へのサポートを盛んに行っている、「Tokyo Midtown Award」。グランプリを受賞した本作品に実現の場を提供し、この度、東京ミッドタウンで初の「MID DAY」を開催いたしました。



↑東京ミッドタウンで告知された様子

イベントプロデュースは受賞者である「bivouac」が実施。イベントのメインビジュアルも4名が製作し、「一年のまん中を笑顔でまたごう」をキーコンセプトに開催しました。

7月2日を迎えるまでの12日間を「“MID DAY” WEEK」とし、新しい半年を笑顔で迎えるために「34個のサプライズ」を準備。東京ミッドタウンに來街する方を「笑顔にする日」として、様々なイベントを実施しました。



↑ bivouac 制作のメインビジュアル

「bivouac」がイベントを盛り上げるカウントダウンサイトも立ち上げ、当日までのカウントダウンやイベントの様子をレポート



## 審査員も参加！MID DAYのサプライズ

「Tokyo Midtown Award」の審査員企画として、柴田文江氏や水野学氏、佐藤卓氏も参加。柴田文江氏のアイデアから生まれた「MID DAY Ribbon」は、これからの半年を笑顔で過ごせるようにと、それぞれの想いを託す絵馬のようなリボンで、想いを書き入れた多くのお客様のリボンがカラフルに会場を彩りました。佐藤卓氏のアイデア「東京ミッドタウンのまん中を探す」という「MID POINT」がキャンピースクエアのまん中に設置されました。

また、水野学氏が提案した「どまん中プレゼント」は、「自分の心のどまん中の人＝大切な人。一年のまん中の日に、大切な人にプレゼントを贈って笑顔にさせよう」という企画で、東京ミッドタウンのショップがプレゼントを提案、オリジナルのPOPが各店に登場し、メッセージカード用のコースターがお客様に配られました。



↑どまん中プレゼント 店舗での提案の様子



↑東京ミッドタウンのまん中を示す、MID POINT



↑MID DAY Ribbonの様子  
約1500人の「半年の想い」が結ばれました

## 7月2日に行われた、数々の「笑顔になれる」サプライズ

「MID DAY」当日は、「一日のまん中の時間」である正午のカウントダウンを皮切りに、観れば「思わず笑顔になる」イベントを多数開催。東京ミッドタウンのスタッフに扮したダンサーが突然ダンスをして盛り上げたり、東京二期会による特別プログラムのオペラが始まったりと、賑やかな一日となり、平日ながら多くのお客様が集まりました。

2013年の「Tokyo Midtown Award」グランプリを経て、今年初開催された「MID DAY」。東京ミッドタウン以外にも広がっていくイベントに育つよう、今後もぜひご注目ください。



←↑東京二期会のオペラの様子。  
フラワーシャワーのサプライズも



↑思わず笑顔に、ハッピーになるようなダンスは、通りがかりのお客様も多く足を止めて楽しみました



↑お客様の笑顔を撮影し、無料でDLできるサプライズを実施

「bivouac」は、7月2日(水)の当日、イメージビジュアルにちなんで写真プレゼントするサプライズを実施。「一年の振り返り」の記念になり、「思わず笑顔になる」撮影を、多くのお客様が楽しみました。



↑撮影に臨んだbivouacのメンバー

### 初めての「MID DAY」を終えて

2014年7月2日、私たちにあって、この日は特別な1日になりました。初めは、ささやかなプランだったものが、話し合いのなかで、街をあげて祝う大きなイベントに。当日は、予想を上回る来場者におこし頂き、「まん中の街・東京ミッドタウンが、1年のまん中を祝う」という当初の目的は実現できたのではないかと思います。今後も、7月2日が少しでも特別な1日になるよう、MID DAYの普及につとめていきます。

(bivouac/稲田 尊久)

「歌舞伎フェイスパック」でなりきり写真続出！発売から半年で10万セットが完売！

美容のために使用するシートパックに、歌舞伎の隈取(くまどり)が施され、顔に載せればあなたも一瞬で役者気分。そんな、ユニークなパックが販売されているのをご存知でしょうか。昨年秋に発売されて以来、歌舞伎座や羽田空港でお土産としてヒットしている「歌舞伎フェイスパック」。SNSを中心にパックを使用している写真が多くアップされ、今もお話題の商品です。発売から半年で10万セットの売り上げを記録しているこのパックは、実は「Tokyo Midtown Award」のデザインコンペ受賞作品を商品化したものです。

#### ● 当時学生だった小島氏のアイデアによる作品、「JAPANESE、FACE」

「歌舞伎フェイスパック」の生みの親、小島 梢氏が「Tokyo Midtown Award」で学生部門の準グランプリを受賞したのは2008年。その年の募集テーマであった「日本の新しいおみやげ」を、“日本の顔(代表)”として捉え、歌舞伎の隈取をフェイスパックに仕立てた作品で受賞しました。



歌舞伎フェイスパック ¥880(税込)

#### ● 受賞から6年。2013年冬に発売

この作品が、当時同じく「日本を代表するような新感覚のお土産」をつくり出したいと考えていた、歌舞伎座に店舗を構える㈱一心堂本舗の目に留まりました。

シートパックという、日本人の美容にとっても馴染みがある商品に、伝統的な歌舞伎の隈取を施す、この作品の商品化。パックに色を乗せるということは、技術的な苦労もあったとのことで、商品化まで長い月日を要しましたが、隈取は歌舞伎役者の市川染五郎氏が監修、パッケージデザインを小島氏が新たに手がけたことで、スタイリッシュで話題性のあるお土産として人気を呼んでいます。

「Tokyo Midtown Award」は、このように作家と企業のマッチングなども商品化サポートの一環として行っています。

#### 自身のクリエイティブに影響を与えた作品の商品化



Tokyo Midtown Awardを受賞してから、6年越しでの商品化。普段は「商品」を売るための「広告」を作る立場にいるため、「商品」を開発する側に関わる、という、とても貴重な体験をさせていただきました。「歌舞伎フェイスパック」は自分の想像以上に様々なメディアに取り上げられ、良い意味で独り歩きし、普段自分が手がけている「広告」とは、全く異なった形で生活者の元へ広がって行きました。今の時代、「商品」自体の持つ力を、もっと強くする事も、新たな「広告」表現の一つなのかもしれないと、自分の仕事に対して、新たな見解を見出すきっかけとなりました。

#### 歌舞伎フェイスパックの生みの親！受賞者プロフィール

<小島 梢 Kozue Kojima>

デザイナー、アートディレクター / 1984年愛知県生まれ/ 桑沢デザイン研究所屋間部卒業後、武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科に3年次編入し、卒業/ 同年、株式会社電通に入社。現在は株式会社電通中部支社に赴向。

#### 4. アートコンペ 2013年度受賞者によるコラボワークショップ開催情報！

夏休み真っ盛りの7月18日(金)～8月31日(日)の期間、東京ミッドタウンでは、親子で楽しめる様々なキッズプログラム「なつやすみ キッズが楽しむミッドタウン」を開催します。そのプログラムのひとつとして、「Tokyo Midtown Award」のアートコンペ受賞者による特別ワークショップを開催します。

【名 称】 夏だ！ARTだ！なんちゃってサングラスを作ろう！  
カラフルなアクリルを使って、自分だけのオリジナル「なんちゃってサングラス」を作ります。

【日 時】 8月14日(木) 11:00～18:00

【場 所】 アトリウム 【料 金】 無料

【主な対象】 未就学児～小学生 【主 催】 東京ミッドタウン

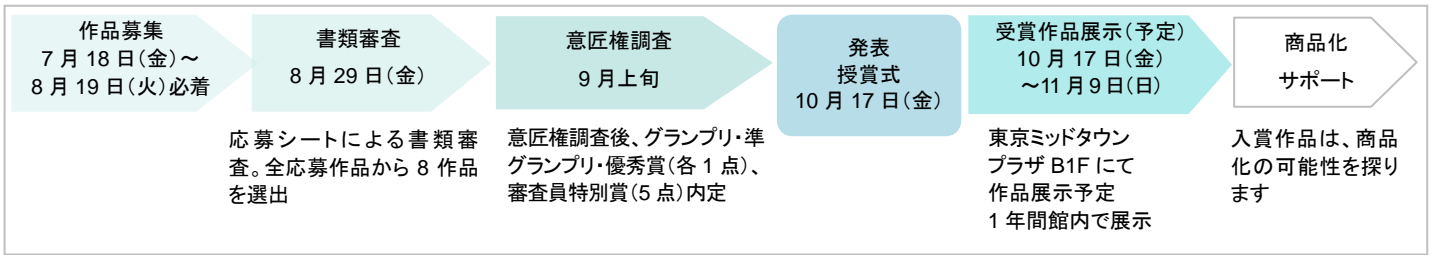


イメージ

#### ■講師／ 渡辺 元佳 (わたなべ もとか)

「Tokyo Midtown Award 2013」優秀賞受賞。動物をモチーフにした作品や、機械仕掛けの作品等、東京を中心に個展やパブリックアート・ワークショップ等幅、広く活動。

## 5. デザインコンペ/アートコンペ審査スケジュール <デザインコンペ> 審査の流れ



デザインコンペでは、「和える」をテーマに、7月18日(金)からデザインの募集を開始します。応募作品は8月29日(金)に実施される書類審査を経て、9月上旬に受賞作品8点が内定します。書類審査も報道関係者の皆様に公開させていただく予定です。



昨年の書類審査の様相

### <アートコンペ> 公開2次審査(7月28日(月))開催

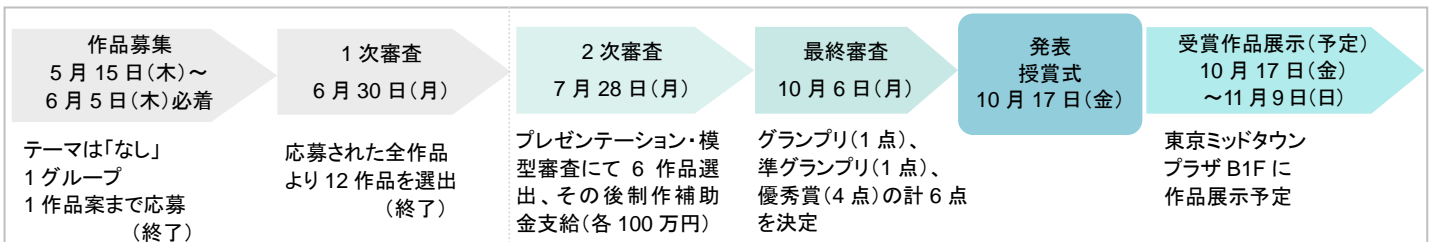
6月5日(木)に募集を締め切ったアートコンペ。今年度は応募作品数が357点と昨年より64点増加しました。1次審査で12作品を選出し、2次審査では、応募者による公開プレゼンテーション及び模型審査を行い、最終審査に進む6作品を決定します。各審査には、アートコンペ審査員5名全員が参加します。入選作品を選ぶだけでなく、結果的に落選となってしまう応募者にも、よりよい作品への“ヒントを与える”審査となり、「Tokyo Midtown Award」が“育成型コンペ”たる所以とも言える審査会です。

2次審査は、事前にウェブ(<http://www.tokyo-midtown.com/jp/award/>)でお申し込みいただいた一般の方もご見学いただけるほか、報道関係者の皆様にも公開いたします。(取材をご希望の方は事前にご連絡ください。)



昨年の公開2次審査の様相

### <アートコンペ> 審査の流れ



最終審査進出者には制作補助金100万円が支給され、東京ミッドタウンのプラザB1Fにて実際の作品を制作・展示します。その後、10月6日(月)の最終審査で各賞が決定します。

## 6. デザインコンペ 審査員からのコメント



### ■ 小山薫堂 / Kundo KOYAMA

(放送作家 / 脚本家/N35inc・(株)オレンジ・アンド・パートナーズ代表)

東北芸術工科大学デザイン工学部企画構想学科長)

2012年に京都の老舗料亭を引き継いだ時から「和とは何だろう？」と、自問自答を繰り返してきました。そして辿り着いたのが、「和とは、和えること」という結論でした。

奇しくもそれが今回のテーマ！個人的には例年以上に興味深く、作品への期待も高まります。資源に乏しいこの国は、何かと何かを和えて新しい価値を作り出す、という方法で発展してきました。言わば「和える」という発想は日本の原点です。加えて言うなら、伝統とは革新の連続であり、それはすなわち過去と現在を和えて未来を作り出すことでもあります。素晴らしい作品に会える日を楽しみにしています。



### ■ 佐藤 卓 / Taku SATOH

(グラフィックデザイナー / 佐藤卓デザイン事務所 代表取締役)

「和える」と「合える」の違いは何なのでしょう？ただ合わせるという意味ではないから、わざわざ「和える」と書くのでしょう。和を尊ぶ日本ならではの気持ち方が、ここに現れているように思います。素材の良さを消してしまうほど混ぜ合わせないという感じでしょうか。その手加減、やり過ぎない感じを大切にしたいものです。そして、「モノ和え」もあれば、「コト和え」もあるでしょう。今年もユニークな作品を期待しています。



photo by: Seiji Tonomura

### ■ 柴田文江 / Fumie SHIBATA

(プロダクトデザイナー / 武蔵野美術大学教授)

一見すると混じりあわないモノや事柄が、それぞれの個性を共振しながらひとつになる。人、モノ、技術、素材、工法、仕掛けなどを、「和える」ことで生まれる思いも寄らない変化や、想像以上の展開を予感してワクワクするからでしょうか。単音にはない、ハーモニーが奏でる豊かな音があるように、デザインの中で和えられた新たな価値に出会えることを楽しみにしています。



### ■ 原 研哉 / Kenya HARA

(グラフィックデザイナー / 武蔵野美術大学教授 / 日本デザインセンター 代表)

「和える」は微妙である。混ぜ合わせるだけではなく見事に調和していなければならない。「和えるもの」などと料理用語に使われるほどであるから、どこか味覚や官能に通じている点も大事である。さらに言うと「和える」は結構大人の感覚ではないかとも思う。ギミックを意識した大げさなハイブリッドや、実験的な融合ではなく、複数の要素を融和させることで生まれてくる価値を、冷静に見定めて収穫しきる、したたかに冷めた目と技量が必要になるような気がするのだ。ミッドタウンアワードの個性も徐々に確立されつつあるが、さらになるほどと、心の底から共感できるような発想を期待したい。



### ■ 水野 学 / Manabu MIZUNO

(アートディレクター / クリエイティブディレクター / good design company 代表 /

慶應義塾大学特別招聘准教授)

東京ミッドタウンデザインアワードの審査員を担当させていただいて、今年で7回目となりました。年々、応募作品の質が上がっているように感じます。

毎年、審査員を担当させていただいているおかげで、ある意味、デザインを定点観測しているかのようでもあります。東京のまん中であり、今や文化の中心になりつつある街で、数々の新しいデザインが生まれていく様子を間近に見ることができてとても嬉しく思います。審査をしながらも応募作品に驚いたり、興奮したり、感動したりしています。今年も、たくさんの「！」に出会えることを願っています。